

読売俳壇

高野ムツ才選

たたかはぬ角のびのびと蝸牛

加古川市 東田 強

【評】蝸牛の角が触角で武器でないことは承知の上で、あえて「たたかはぬ」と表現した。戦いに明け暮れる人間を暗に揶揄したのだ。「蝸牛角上の争い」は人間世界の出来事。出来るなら全て脱ぎ捨てブランコに

大阪市 農本 定成

【評】確かに、ブランコを漕ぐのは真裸の方が人間であることも忘れるくらい楽しそう。これも人間社会に嫌気がさした人の願望だろう。新緑が目飛び込むが痛くはない

塩尻市 神戸 千寛

【評】真新しい緑の林を散策しての率直な実感だろう。「目に入れても痛くない」との慣用句があるが、生まれては全てが愛しいものだ。鵜簪やずぶぬれの鵜を照らしをり

宮崎市 長友 聖次

鷺の喉蛇下り切る大野原

西宮市 塩川 直樹

玉虫の天平の色失はず

町田市 谷川 治

手づくりのジャムのひかりや柿若葉

大和市 おおもりじゅん子

今生の声いくえにも蟬時雨

東海市 斉藤 浩美

海開き廃炉十基は閉じたまま

郡山市 寺田 秀雄

玄関に置いてけぼりの夏帽子

東京都 山田真理子

正木ゆう子選

沙羅双樹遠い約束せぬように

西宮市 岡野 園子

【評】遠い先のことを約束すると、果たせるかどうかかわからない。そう思うのは、言わば老いの自覚だろうが、取り合わせた沙羅双樹が素敵。季語が全てを肯定してくれている。月の夜も闇夜も烏瓜の花

佐野市 高橋すみ子

【評】花の名が八音もあるので、残りは九音。しかも句跨がりとなる制約の中、いかに遊ぶかが見所。この九音、たつぷりと遊んでいる。見れば振る梅の実シロップ漬にして

東京都 松永 京子

【評】梅から水分が出て、氷砂糖がよく溶けるように。梅がまんべんなく蜜を纏うように。見える処に置いて、日に何度も振る。楽しい梅仕事。乗客を窓よりあらふ青葉風

長岡京市 みつきみすず

土砂降りのさなか蜘蛛の巣編み上がる

石川県 青い

竹林の木漏れ日にあり苔の花

柏市 藤嶋 務

心太不意に言われて書けぬ文字

大竹市 二階堂頼二

巻き舌の赤翡翠や浅き夢

新潟県 冬木 陽介

しづかなり泰山木の花の下

越谷市 安居院半樹

ズッキーニの受粉せねばと早起きす

熊谷市 飯塚ふみ江